

令和 6 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	(株) クレアメディコ	代表者	内田 邦彦	法人・事業所の特徴	「医療・介護の原点はやさしさ」 上質な医療・介護を提供し、信頼され、選ばれる「さわやか苑」を目指し、地域医療・介護に貢献します。
事業所名	多機能ケアセンター さわやか苑長岡藤沢	管理者	小林 貴道		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	人	1 人	1 人	1 人	1 人	1 人	2 人	人	8 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・ほぼ全員が参加できるカンファレンスを毎月 1 回行う。今後の対応だけでなく、ご本人の思いや職員の気づき等出た意見を共有し話し合い、意識を統一する。 ・翌月のカンファレンスにて振り返り、評価、修正を行う。「ご本人の思い」についても変化など個別担当職員が関わった中で発信、他職員の気づきも共有する。 ・個別担当職員は在宅生活がより良くなるよう苑で何をすべきか目標設定し、ご本人のニーズや自立支援を反映させた対応表を毎月更新、周知し、実施管理を行う。 ・毎月職員と事業長(主任)でのマンツーマンミーティング、月 1 回のカンファレンスにて意見を言い合い、事業所のあり方を共有していく。 ・認知症・トランス・排泄・入浴の各マスター職員が毎月チェック項目を作成し、職員全員が自己チェックを行う。できていない項目については個々にマスター職員が指導を行い、できるようにしていく。	・個別担当職員が意識して関わり、対応の提案や発信等が増えている。 ・対応表を随時修正しながら対応周知、実施が来ている。 ・カンファレンスは実施日を固定して行えてきている。 ・日々の昼礼でも随時話し合いが行えてきている。 ・個別担当職員によって提案や発信の差ができてきている。 ・訪問等にて、ご自宅での様子を共有しケアにつなげている。 ・対応表を毎月更新できている。 ・担当ご利用者様について自分から提案や発信ができていない職員もいる。 ・職員の人員が少なく、昼礼に参加できる職員が少ない。 ・職員とのマンツーマンミーティングを行い、意見などを業務に反映できている。 ・ご家族様などからいただいたご意見は事業所で検討し、改善を行っている。 ・新聞をご家族へ配布することができた。	・いろいろな問題にスタッフ全員で取り組まれている。 ・対応表の修正が上手く取り組めていない職員へのフォローが必要。職員の皆さんが統一的な対応に取り組むことで、より良いサービス提供につながるかと思います。 ・普段からカンファレンスなどを活用して情報共有や意識の統一を図っているとのことですが、マスター職員制度が中止になったことで職員への指導やサポート体制に支障が出ないのか、その点が気になりました。マンツーマンミーティングに関しても、多忙な業務の中で時間を作るのは大変だと思います。行う目的や取り組み方を検討し、ご利用者へのケアや働きやすい環境づくりに役立てていただきたいと思います。 ・「できていない点」については、できていない事実だけでなく理由を分析することで、さらに具体的な改善計画が作成できると思いました。	・個別担当職員を事前に決定し、個別担当職員にて事前情報を基に対応表を作成し、利用開始前に周知する。 ・対応表を基に対応を実施、実際に関わった中での様子をこまめに記録に残し、利用開始から 1 週間は昼礼にて連日情報共有する。対応表は随時修正していく。 ・カンファレンスは必ず月 1 回行う。職員の思いや考え、日頃の気づきを共有する。 ・昼礼参加職員全員がご利用者様の様子、気づき、対応等について必ず何かしら発言する。 ・毎月 1 回、事業長・主任・ケアマネジャー・リーダー・看護師が集まり、ご利用者様の状態、ニーズに応じてサービス提供できているか検討会を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	・担当職員が、曜日を決めてその日の業務分担表に清掃の割り振りを行う。全員が平等に行い、その場で確認、チェックしていく。 ・季節を感じていただける飾りつけ作りを継続していく。写真に撮り、広報誌のような枠をあらかじめ作成し、写真を個々に当てはめてご家族へ配布する。	・担当割り振りはできないことが多かったため検討が必要。 ・季節を感じていただける飾りつけ、行事等のご利用者様に楽しんでいただき継続して行うことができた。	・事業所内に不快な音や臭いは感じられません。自動ドアは手動になっていますが、施錠はされていません。チャイムを鳴らすと職員が出迎えてくださいます。 ・事業所内に立ち入る機会はありませんが、運営推進会議の際に事業内の飾りつけや作品づくり、活動の写真を見せていただき、ご利用者が楽しまっている様子がわかりました。 ・運営推進会議でうかがう際は、室内の温度も適温で、清潔だと感じています。 ・運営推進会議がシルバーハウスの食堂で開催されているため、小規模多機能のフロアに立ち入る機会がありません。個人情報保護や感染症の状況などで難しいのかもしれませんが、実際に立ち入って見学できるとさらに雰囲気伝わると思います。	・連日のリネン交換や清掃に加え、月 1 回の月例会議時は出勤職員全員で整理整頓・清掃を行う。 ・季節を感じていただける飾りつけ作りを継続していく。

C. 事業所と地域のかかわり	・雑巾プロジェクト（雑巾を手縫いし、近隣の保育園、小中学校に寄付するもの）をで、できるだけ多くのご利用者様に参加いただき、地域貢献、地域との関りを感じていただく。子供たちへ直接お渡しにご利用者様が参加する。 ・雑巾作りは針が紛失しないよう目印をつける、糸通しを多く購入し、行いやすい環境を整える。 ・雑巾プロジェクトを行うことで、小学生が町探検に来ていただき交流を深めていただくことや、運動会のリハーサルなど見学させていただけるようなかかわりを築く。ご利用者様の生活の楽しみにつなげる。	・雑巾づくりをされるご利用者様が増え、毎週水曜日に雑巾作りを行えている。 ・町探検に来られた小学生生徒に雑巾をお渡しして喜んでもらえた。ご利用者様も子供達との交流を楽しまれていた。	・雑巾プロジェクトは「自分が得意なことを活かして役に立つことができる」という張り合いと生きがいにつながっていると思います。取り組みの経過も長くなり、ご利用者と地域とのつながりも深まっているように感じます。さわやか苑がアビールできる取り組みだと思いますので、これからも続けていただきたいです。 ・運営推進会議のなかで、スタート時よりも多くの利用者が雑巾作成に参加されていると聞きました。プロジェクトの輪を今後も広げていただけると良いなと思いました。 ・安全に雑巾を作れるよう環境を整えられていることが分かりました。安心して針仕事ができるのも職員の皆さんが工夫しながら、環境整備に努めていられるからだと思いました。	・雑巾プロジェクト（雑巾を手縫いし、近隣の小中学校に寄付するもの）を継続して行う。毎週水曜日に行く。何枚完成したか、ご利用者様がわかるようにして、よりやりがいにつなげる。 ・小学校へ寄贈に伺えるよう準備をしていく。直接ご利用者様が生徒へ渡すことで地域貢献、地域とのつながりを感じていただく。 ・地域の行事には可能な限り参加していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	・外出レク、ドライブなど外に出る機会を定期的に設けていく。ご本人に伺い、行きたい場所にお連れする。 ・雑巾プロジェクトで地域と関わる。 ・毎月1回のカンファレンスでは、その方にとっての地域資源とは何か話し合う。	・地域資源を考えるまでには至らない。 ・外に出る機会が少なかった。 ・小学生生徒が町探検に来苑、秋祭りを開催など地域との交流は多かった。	・地域の方を交えた会議への参加状況が確認できませんでした。包括主催の地域別多職種交流会にはケアマネさんが参加され、地域の現状を共有してくださいました。 ・自己評価のなかで、「利用者が事業所外でどう過ごしているか把握している」に把握していると答えられた職員が多くいられ、利用者との良い関係性を築かれていると感じました。	・雑巾往路プロジェクトにて地域と関わる。 ・個別担当職員にて行きたいところ、観たいところを伺い思い出の場所等へドライブに行く。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	・毎回現場職員が1名参加できるようにしていく。外部の評価を聞くことでやりがいやケアに活かしていく。 ・事例検討実施を検討していきたい。 ・事業所を実際に見ていただく機会を設けていく。	・管理者、ケアマネージャー以外の職員参加は1回のみであった。 ・事例検討会実施は行えず。 ・事業所を観ていただく機会を設けていなかった。	・サービス利用状況の報告、活動の写真の紹介などを通じ、事業所の取り組みを理解することができました。運営推進会議で出た意見を参考に取組もうとしている姿勢は感じられますが、行えていないことも多いように感じます（会議への現場職員の参加、事例検討など）。 ・職員体制、業務の都合などで現場職員の参加が難しいこともあるかもしれませんが、運営推進会議の場で自分たちが行っている取り組みが評価されることでモチベーションの向上、現場職員のやりがいにつながるといいと思います。	・毎回現場職員が1名参加できるようにしていく。外部の評価を聞くことでやりがいやケアに活かしていく。ていく。 ・運営推進会議にて事業所を実際に見て評価していただく。
F. 事業所の防災・災害対策	・前年度の反省点を改善した訓練を行う。 ・当日参加職員が偏らないようにしていく。 ・ご家族への連絡、独居の方の確認なども多機能として取り決めを行っていく。	・避難訓練を確実に実施し、職員の理解を深めることができた。改善点は多くあったため、次年度に活かしていく。	・独自で防災計画を作成している地域（町内）が増えており、ひとりひとりの要支援者に担当をつけ、災害が起きた際に避難誘導する計画が立てられているところもあります。令和元年の台風19号による増水の際、地域の方が先に単身高齢者を避難所に誘導してくださったため、ケアマネがそのご利用者の所在を確認できなかったという事例もありました。改めてご利用者がお住まいの地域ごとの防災計画を確認し、地域と事業所が連携を図っていく必要があると感じました。 ・運営推進会議のなかで、災害状況にあわせた訓練結果を報告いただきました。場面にあわせた避難方法の再検討等も報告いただき、事業所全体で取り組まれていると感じました。引き続き、いざという時に対応できるよう取り組んでいただきたいです。	・前年度の反省点を改善した訓練を行う。 ・当日訓練に参加できない職員への伝達含め、全員が実際に起きた場合に動けるよう訓練をしていく。